

10 形成外科フェロー研修要綱

指導責任者 森下 剛

基礎的な研修事項

1. 小児形成における外来診察・説明の基礎・記録の取り方など
小児および家族への接し方、診察、説明の仕方などの基本概念・実際の方法を学習し、自ら実施することができる。その他記録としての記載、計測、写真等の留意事項について学習することが出来る。
2. 部分麻酔
形成外科として必要な麻酔、局所・伝達麻酔の技術を習得して、自ら実施できる。
3. 形成外科手術に必要な器具
基礎的な手術器具（メス、フック、剪刀、せっし、授針器、かんし、吸引器、電気メス、縫合材料）と特殊手術器具（採皮器具セット、手の外科用器具セット、顕微鏡）についてその特徴、目的、使用法を理解習得して、自ら経験し活用できる。
4. 形成外科に必要な基本手術手技
次の各手術手技について概念、方法、適応などを熟知していただく、その手術手技の一部（アンダーライン）については自ら実施できる。
あざ（赤あざ、茶あざ、青あざ、黒あざなど）に対する治療（レーザー治療およびその他の切除、保存的治療を含める）
四肢の先天異常（裂手、多合指、爪変形など）に対する治療
その他の先天異常（小耳症など耳介変形、臍変形等）に対する治療
皮膚皮下腫瘍に対する治療（あざ以外でレーザーなどが効果を持たないもの）
創傷に対する治療（出来るだけ小児に負担のない湿潤療法などを含める）
頭蓋縫合早期癒合症に対する診断（頭の形外来）・治療（脳神経外科と共同で）

主に学習する手術手技

縫合術、Z形成術、分割切除術、局所皮弁形成、組織拡張器による再建術、組織移植術（植皮、採皮、採骨、脂肪移植、粘膜移植、複合組織移植、植毛、爪移植、骨・軟骨移植）

5 年1回以上は学会発表を目標とする